

令和5年度 学校関係者評価書（都城市立姫城中学校）

4段階評定 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		自己評価結果の考察・分析及び改善策等	評価委員評価	学校関係者評価委員の意見
		評価	総合評価			
1 知 (確かな学力の育成)	(1) 「分かる、できる」を実感できる授業実践:① ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.0	3.1	○ 生徒による「ひなたの学び」、教師による「わさびの授業」を意識し、日々取り組んでいる。 ○ 各種テスト対策を図り、少しずつ学力が向上してきている。 ○ 相互参観授業を実施し、日々研鑽に取り組んでいる。 ○ 学年職員の輪番で道徳の授業を担当し、生徒の意欲が高まった。 ● 学力の二極化が見られる。特に、習熟度の低い生徒への対応が課題である。 ◇ 「ひなたの学び」の推進と「わさびの授業」の意識的な実践をする。	3.3	○ これからの時代を生きていく子どもたちに必要不可欠であるICTを取り入れた授業や家庭学習を実施されているところが素晴らしいと思います。 ○ キャリア教育について、職業講話を例年開催いただいておりますが、企業側としても大変有意義であるとお声をいただいております。次年度も引き続き継続していただくと幸いです。 ○ 生徒による「ひなたの学び」 ・ひとりひとりが問いをもち ・なかまとなって学び合い ・たかめよう深く考える力の取組は、学びに向かう力を育む、とても良い取組ですね。 ○ 学校に対して授業内容をよく理解させているかという問いに、実際に授業を受けている生徒の9割以上が理解できていると答えている。また、ICTを活用した学習についても生徒や保護者からの評価は高い。 ○ 忘れ物が自分も多かったが、チェックシートを使って確認していた。 △ 登校の見守りをしている時、分からないことがあったら、友達に聞いたり、先生に教えてもらおう様に声をかけている。 ● 学力の落ちた生徒は生活面も心配。対応は必要だが、原因を探ることも必要かもしれません。 ● 家庭学習の充実やキャリア教育について、子どもの生活習慣を間近で見ている保護者の視点からはまだまだであるという評価のようだ。家庭において、家庭学習やキャリアに対する思いを話し合う工夫が必要なのではないか。
	(2) 効果的にICTを活用した授業実践:② ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.3		○ ICTを取り入れた授業を実施できた。 ○ 昨年より授業や家庭学習でICTを活用させることができた。 ● 学習教材キュビナの活用率は下がっている。 ◇ ICTを活用した効果的な授業を実施する。 ◇ キュビナを授業で活用する。		
	(3) 家庭学習の充実:③ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.0		○ 学習用PCの持ち帰りは日常化している。 ○ テスト前に、プリントを作成させることで計画的に学習に取り組む環境を作っている。 ● 学習用PCを持ち帰るが、持ってくるのを忘れて、充電してなかったりすることが多い。 ◇ ICTを活用した家庭学習課題の提示方法の工夫をする。 ◇ テストに向けたプリントの活用を続ける。		
	(4) キャリア教育の見直し:④ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.0		○ おいろう(デジタルキャリアシート)を活用できている。 ● 進路に関する情報を様々な方法でもっと家庭に発信し、興味関心をもたせ、考えさせるための工夫が必要である。 ● 総合的な学習の時間の年間計画を見直しながら、外部講師や地域との連携を図っていく。 ◇ 進路に関する情報の発信をしていく。 ◇ おいろう(デジタルキャリアシート)の活用をさらにしていく。		
2 徳 (心の教育の充実)	(1) 基本的な生活態度の確立:⑤⑥ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.0	3.1	○ あいさつ運動も復活し、あいさつに対する意識が高まっている。 ○ 自主的な清掃活動(朝)に取り組む生徒も見られた。 ● あいさつや返事は生徒によって、取組に差がある。 ◇ 生徒会とも連携しながら、学校全体で意識を高めていく。 ◇ 生徒会活動を中心とした、生徒主体の活動を推進していく。	3.3	○ 合唱コンクール等に参加している子どもたちから、クラスみんなで心をつなげて頑張ろうとする様子がうかがえて微笑ましかったです。行事で子どもたちの心が育っている様に感じます。あいさつとてもいいです。 ○ 校内でのあいさつは素晴らしい。 ○ 登校の見守りをしている時、自分から進んであいさつをする生徒もいる。以前より意識は高まっている。 ○ 図書啓発支援員が採用されること、読書をする生徒が増えると思います。 ○ よく読書をする学級等が紹介されているのを見ましたが、生徒のより良い成長に読書は大切です。 △ 自分たちの時のように、学年で12、13クラスあった頃と違って、目が届きやすいと思います。確かに早期発見、対応は必要です。 △ 登校見守り中に、友達からいやなことをされたりいじめられたりしたら、先生たちに言うように声をかけている。 △ あいさつや返事、思いやりのある言動は生徒、保護者、職員ともに高い評価となっているが、家庭でのお手伝いについて、保護者の評価は厳しい。 保護者の期待値が高いという事かもしれないが、保護者に対する感謝の気持ちが育まれる取組を期待する。
	(2) いじめ防止対策・不登校生徒への対応:⑦ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.0		○ 計画的な教育相談といじめアンケートを実施できた。 ○ 必要に応じて、スクールカウンセラーや関係機関と連携しながら、対応していくことできた。 ● ちょっかい、からかい、心ない発言がいくつかあり指導した。 ◇ 更なる生徒への常時指導が必要。 ◇ 計画的な教育相談といじめアンケートの実施して、いじめ防止と早期発見・早期解決に努める。 ◇ 命の大切さを伝える活動とSOSの出し方教育を推進する。		
	(3) 思いやりの心の育成:⑧⑨ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.3		○ 全校一斉に命の大切さを伝える授業を実施できた。 ○ 生徒会による「絆記念日」の推進ができた。 ● 思いやりのない言葉により、トラブルとなるケースがあり指導した。 ◇ 生徒信条をベースに、更なる自主的な生徒会活動へのしなげを行っていく。 ◇ 生徒会による「絆記念日」の啓発活動の充実を図る。 ◇ 全職員による心の教育の充実や道徳の実践をしていく。		
	(4) 豊かな心を育む読書活動の推進:⑩ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.0		○ 掲示や放送による、本の紹介や読書の啓発が行えた。 ○ 読書冊数が増え、読書への意識向上を図れた。 ● よく読書をする生徒とそうでない生徒の差が大きい。 ● 図書担当の職員の負担が大きい。 ◇ 読書量をさらに増やし、豊かな心の醸成につなげる。 ◇ ピブリオバトルを実施して読書の啓発を図る。 ◇ 計画的な図書室の開館と図書室の本の紹介をする。		
3 体 (健康安全と体力の向上)	(1) 交通安全指導や安全点検の徹底:⑪ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.7	3.6	○ 定期的な安全点検の実施により、校内の修繕を行うことができた。 ● 帰宅後に遊びに行くときの交通マナーが悪く指導した。 ◇ 交通ルール及び交通マナーについて、常時指導をしていく。 ◇ 登下校における見守り・巡回指導を実施する。 ◇ 安全点検を定期的実施する。	3.6	△ 以前は福祉体験活動などを授業されていたが、現在は予定されないですね。 △ 体調不良やアレルギー反応等がある場合を除き、完食させるのは教師の指導と思う。ただ、小学校低学年で完食は当たり前と児童に思わせることが重要と思う。 ● 全体的に様々なルールを守り、体力向上等にも取り組まれているが、一部、家庭内のルールが守られていない部分がある。こうした「家庭内ルール」についても、無理のない範囲内で保護者も生徒も納得してルール化できるような親子の語り合いの場が必要なのではないか。 ● 登校中は交通のまきりを守っているが、たまに下校中数人でおしゃべりをしながら歩道に広がっているのを見かける。
	(2) 危機管理意識の高揚:⑫ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.3		○ 防災教育で風水害の対応についての確認ができた。 ○ 避難訓練で、避難経路の確認ができ、課題も見えた。 ● SNSによるトラブルが数件発生し、指導した。 ◇ 情報モラルの常時指導を継続して行っていく。 ◇ 防災教育と避難訓練を実施していく。 ◇ 情報モラル教育をさらに充実させていく。 ◇ 職員における不審者対応研修の実施する。		
	(3) 体力向上や健康意識の育成:⑬⑭ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.7		○ 体力向上プランに則って、体力向上を図ることができた。 ○ 各部活動において、計画的に活動ができた。 ○ 昨年より全体的に給食の残量が減った。 ● 給食の残量が多い学級もあり、学級によって差がある。 ● 治療が必要な生徒は少ないが、治療率が低い。 ◇ 治療が必要な生徒への、個別指導を実施する。 ◇ 発達段階に応じた性教育を実施する。 ◇ 部活動休養日の設定を確実にする。		
4 地 (家庭・地域との連携)	(1) 家庭と学校の連携の充実:⑮⑯ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.3	3.2	○ 学校便り、学級通信、各種便りを積極的に発行できている。 ○ 昨年度より多くの方々に体育大会や文化発表会、参観日などへ参加していただいた。 ○ シグファイ(sigfy)を効果的に活用することができた。 ● 参観日の内容や回数工夫と改善を図る。 ◇ 各種通信による情報提供をさらに充実させる。 ◇ 魅力ある学校行事の立案と計画及び実施をする。	3.3	○ みやこんじょ・福祉ボランティアスピリッツ賞の受賞も頑張ってきたことの証で素晴らしいです。 ○ 姫ボラの活動は、学校運営協議会の中でお話いただいているので、積極的に動いているという印象があります。 ○ シグファイによって細やかな情報提供がなされていました。 ● コロナで地域行事の開催が難しい部分もあり、そうした行事やボランティアへの参加が低いのは非常に残念。ただ、ボランティアの形も様々で、1人でできるボランティアもある。 進学の事を考えると様々な経験を積む事も必要であるため、徳の部分も含めてボランティアについて考えてみる時間も必要なのではないか。 ● 保護者は、参観日、学級通信、学校便り等で、学校の取組や努力していること等、情報提供があり、色々なことを理解されていると思うが、私達委員は、協議会での話し合い、文化発表会、体育大会への参加等位で、あまり情報が得られず評価するのに悩んだ。せめて、学校だよりは届けてくださると有り難い。
	(2) 地域と学校の連携・協働の推進:⑰ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.0		○ 定期的にホームページを更新できている。 ○ 地域のニーズに応じたボランティア活動を行うことができていく。また、ボランティアスピリッツの表彰を受けた。 ○ 今後も地域の要望に応えながら、連携を図っていく。 ● 受け身のボランティア活動でなく、率先して地域と関わるボランティア活動を実施する。 ◇ ホームページの定期的な更新と内容の充実を図る。 ◇ 地域人材の活用にも更に努める。		